



本村幼稚園 5月の園だより

令和6年4月30日 港区立本村幼稚園長 山崎 高志

そのとき、どんな声かけをするか

園長 山崎 高志



木々の緑が青さを増し、幼稚園の「こいのぼり」がさわやかな風の中を元気に泳ぐ季節となりました。

新学期が始まり、1か月が過ぎましたが、子どもたちは少しずつ新しい環境にも慣れてきました。

今年度も本園は「本物に触れる体験と多様な交流」を行っていきます。4月には早速、小学校6年生のお兄さん、お姉さんと砂場で遊びました。そして、5月25日には本

村小学校との合同運動会が控えています。

さて、多様な交流を進めていくと、人とのかかわりが増えます。人とのかかわりが増えると、それだけいろいろなトラブルが起こります。そして、教育とはトラブルをどう乗り越えるかを教えることでもあります。そのため大人は、どのように子どもに声をかけるとよいかを考えます。

ある5歳の男の子が書いた作文を紹介します。

こうえんでけんちゃんに「ちがうようちえんの子とはあそばない」っていじわるされた。すごくくやしくて（ぼくだって、もうけんちゃんとはあそぶもんか）っておもった。いえにかえるとちゅう、いままでけんちゃんにいじわるされたことばかりおもいだして、ぼくのこころのなかのおこりんぼむしがぼくはつしそうだった。いえにかえっておかあさんにはなしたら、「……」といわれた。（中略）ぼくのこころのおこりのぼむしは、もうどこかへきえていった。

このお母さん、何て言ったと思いますか？あるいは、皆さんなら、どんな声かけをしますか？

この作文を書いた男の子はけんちゃんに何か悪いことをしたわけではないのですから、おかあさんとしては、「けんちゃん、機嫌が悪かったから意地悪したのかな。明日はきっと一緒に遊ぼうって言うよ」と励ますか「けんちゃんひどいね。でもあなたはお友達にそんなことは言わないようにしようね」となぐさめるか「そんなけんちゃんとは遊ばなくていい！」と一緒に怒るかのいずれかが多いと思います。でも、このお母さんはそのどれでもなく、

「じゃあ、けんちゃんにやさしくしてもらったことを考えてみれば」と一言だけ返しました。

私はこのお母さんの声かけがすばらしいと思いました。イライラした子どもの心を一瞬にして冷静にさせ、視点を変えさせたのです。瞬時にこのような声を掛けられるお母さんに脱帽です。

わたしたち教員もこのお母さんのように視点を変え、子どもの気持ちを切り替えさせることができるような言葉を日々かけられるようにしていきます。